

家の中はこうなっている。

GARAGE



↑ガレージには、オートシャッターがセットされ、友人から譲ってもらったモービルの看板が飾られている

STUDIO



↑'50s調のアイテムが並ぶスタジオは、完全防音室になっており、クルマが眺められるようになっている！

KITCHEN



↑冷蔵庫から吊り棚までアメリカ製。見所は何と言ってもシンク。日本製品にはないデザインだ

照明のスイッチも輸入物。

↑アメリカのごく一般的な電気のスイッチがコレ。ネジもマイナスネジで留まっている。目の付け所が違う

↑天井手前のハシラの上部には、一般住宅では考えられないデザインの飾りが付く拘りよう



↑洗面台の流しのデザイン、蛇口や照明や鏡の取り付けも完全にアメリカにきた気持ちにさせられる



↑階段の照明も優しい明かりで照らしてくれるヴィンテージ調。壁はアイデアでひし形に抜かれている



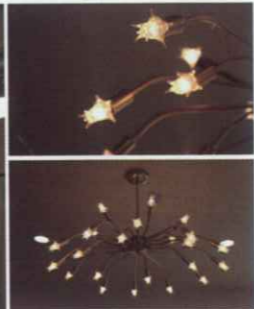
↑飾り棚にもなりそうな張りのある壁。ここに写真やパーツ、絵などを飾ることもできる。その下のデザインも奥ゆかしい

BED ROOM



↑ベッドルームのブラインドも枠ごとアメリカから取り寄せたアイテム。ベッドもアメリカン・デザインだ

LIVING



●天井に埋め込まれた照明とアンティーク調の照明の2通りを用意。照明の球に目をやると素晴らしいデザインなことに注目



スバル360

↑25年前からファミリーカーとしてあったという'69年式のスバル360は、今でも現役。ドアは前方が開くレイアウトだ。パイアスタイヤを履いている

ここに紹介する、稲葉さん。トボレーの'55年210、そしてライダーズ。それもそのはず、210は9年目。ライダーズは30年近く着ている筋金入りのロッカーだ。彼のライダーズスタイルに、ロックは決して欠かせない。それはロックバンドに始まり、その延長線上にライダーズ、210などが付随しているからだ。そして最近、念願のマイホームを建てた。それも普通の家ではなく、「アメリカンハウス」を。これで彼を包む環境はほとんどがアメリカの匂いのするものとなった。しかし、それもこれも家族の理解があつてこそそのライフスタイル。仕事、家庭を両立させることで彼のロックは成り立っている。最近では、奥さんもライダーズを購入し、ペアロックに。

壁の色はクルマと一緒に！



↑こうして見ると完全にアメリカに見える。屋根、窓枠、シャッター、タイルの敷き方までこだわ。壁の色はトラディショナルなトライシェビーの色に行き着いた

これらがキーポイントになるアイテム。



↑中学生から集めているライダーズは19着。A-2やB-3なども持っているが、彼はロッカー。基本的にライダーズだった。そして、それがトレードマークにもなっている



↑左右ともに無名のジャパンブランドの製品。左は'60年代、右は'70年代のもの。左は60歳を超える喫茶店のマスターから、右はバンド仲間からという、どちらも大事な友人からの頂き物

アメグラといえばブラックの'55年。



'55年シボレー210

アメリカン・グラフィティマニアでもある稲葉さん。劇中車の完全なるコピーはする気はないが、年式とカラーリングはピッタリ合っている

中学生からライダーズなんだよね。



30年間、ライダーズ一筋！

中学の頃からロックバンドの影響で、ずっと身に付けているライダーズ。そこで決定付けられたスタイルの延長で手に入れた、210とアメリカンハウス。

text:photo M.Kikuchi 菊池基 取材協力/シューボックス TEL0285-39-2501 www.shuebox.jp